

多職種連携のためのアカデミックリテラシー

責任者・コーディネーター	哲学分野 遠藤 寿一 教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科哲学分野、人間科学科体育学分野、人間科学科心理学・行動科学分野、人間科学科法学分野、情報科学科数学分野・医用工学分野、物理学科、化学科、生物学科、外国語学科英語分野、附属図書館		
担当教員	遠藤 寿一 教授、三浦 康宏 助教、相澤 文恵 教授、藤澤 美穂 講師、廣瀬 清英 講師、江尻 正一 教授、長谷川 大 助教、高橋 史朗 教授、小野 保 講師、奥村 健一 准教授、小松 真 講師、小田 泰行 講師、中島 理 教授、東尾 浩典 准教授、吉田 潤 講師、松政 正俊 教授、三枝 聖 准教授、内藤 雪枝 助教、菅 孔太郎 助教、James Hobbs 教授、柳谷 千枝子 講師、Jonathan Levine-Ogura 助教、松田 竜宙 助教、佐々木 亮平 助教、司書		
対象学年	1	区分・時間数	講義 8コマ 12時間
期間	前期		演習 8コマ 12時間
			実習 0コマ 0時間

・学修方針（講義概要等）

現代の社会では、医療技術の複雑化に対応し、また超高齢化に伴う全人的医療ケアを提供するために、専門職間の連携・チーム医療の重要性が増している。こうした理由から近年、医療系分野を中心に多職種（専門職）連携教育（IPE:Interprofessional Education）が広がりを見せ、複数の専門職が集い、連携・協働の質、ケアの質を向上させるために、共に学び、互いに他から学び合い、お互いについて学ぶことが重視されるようになってきた。

本科目は、このようなチーム医療の基礎を築く IPE の入門コースであり、3 学年における「チーム医療リテラシー」および 4 学年に予定されている 4 学部の合同セミナーに連結するものである。そのため、本科目の目標は、こうした学びに必要な問題解決能力の育成とアカデミックリテラシー（大学で学ぶための諸能力）の修得に置かれる。具体的には、4 学部合同の少人数グループを学びの単位とし、アクティブラーニングの要素を取り入れながら問題解決型学修を行うとともに、問題解決にとって有用なアカデミックスキルを修得するコースを設定し、次の二種類の能力の基盤づくりを行なう。一つは、これからの専門職に求められる能力（医療人としての自覚、他職種の役割理解・尊重、チームワーク、役割と責任、課題を見だし解決に導くための協働と自己主導型学修）、もう一つは、専門知識を修得し、研究能力を身につけていくために必要な一般的学修能力（論理的思考、論理的文章作成、コミュニケーション・スキル、プレゼンテーション・スキル、情報検索スキル）である。

本科目の目標と内容・形態の対応関係は以下になる。（1）専門職に求められる問題解決能力の養成については、まず医療分野等に関するテーマについて WS（ワークショップ）形式の PBL（プロジェクト型学修）を実施し、KJ 法・二次元展開法といった課題解決技を修得する。この PBL-WS では、教員全員がチューターとして学生をサポートする。（2）一般的学修法能力の養成については、考える技術（クリティカルシンキング）、書く技術（ロジカルライティング）のプリントを使用して学修を行う。また図書館の施設や検索ツールを使用した図書館演習を行なう。

（1）は（2）の学びの必要性を動機づけ、また（2）はたんなる座学ではなく（1）で形成された協働の姿勢に基づいて実施される。つまり、本科目の全プロセスは有機的に関連している。したがって、授業の際は（1）と（2）で学ぶことの結びつきを意識しながら、参加してもらいたい。

・教育成果（アウトカム）

図書館演習と文献検索演習によって、適切かつ正確な情報を検索・収集するスキルが身につく、自分の考えや表現に説得力と奥行きを与えることができるようになる。

PBL-WS をグループで行なうことで、医療人としての意識が高まり、他職種の役割や責任および多職種を目指す人の考え方を理解し、尊重する態度が身につく。また、課題解決に向けたチームワークの重要性の意識、各自の役割に対する責任感が培われ、チームに貢献するためには、自己主導型学修が大切であるという認識も形成される。

考える技術（クリティカルシンキング）、書く技術（ロジカルライティング）を通じて論理的な考え方や論理的な表現方法の基本を習得することで、他者の発言や文章を統合的に再構成して理解したり、自分の考えを整理して分かりやすく伝えることができるようになる。またこれによって、適切な質疑応答を含むコミュニケーションやプレゼンテーションの能力が高められる。

以上によって、プロとしての意識が高まるとともに、医療に関する問題を解決するための総合的な力が養われる。（ディプロマポリシー：1、2、6）

・到達目標（SBO）

1. 発言（文章）に含まれる議論の構造を読み取り、隠れた前提を明示して、根拠の妥当性を批判的に検討することができる。
2. 主張・根拠・結論を備えた文章作成ができる。
3. レポートの作成方法を説明できる。
4. 必要な情報を図書館やインターネットを利用して収集できる。
5. 調べた情報に根拠づけができる。
6. KJ法・二次元展開法を使用して問題点を抽出・整理し、解決策を考え出して、図等を用いてそれらを分かりやすく提示することができる。
7. チームで意見交換することの重要性を説明できる。

・講義日程

（矢）西 1-A 講義室、西 1-E 講義室、東 1-A 講義室、東 2-C 講義室
東 2-D 講義室、東 2-E 講義室、大堀記念講堂

【演習】

回数	クラス 月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
1	C1 C2 4/17	月	1	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	多職種・アカデミックリテラシーガイダンス 1. チームで考え、活動することの重要性を説明することができる。 2. 多職種連携が重視されるようになった歴史的・社会的な背景を理解し、その意義を説明することができる。

2	C1 4/19	水	1	法学分野 心理学・行動科学分野 附属図書館	廣瀬 清英 講師 藤澤 美穂 講師 司書	図書館演習 1. 図書館を有効に利用して、情報を収集し、与えられた条件に相応しい書籍を探し出す方法を説明することができる。
	C2 5/12	金	1	哲学分野附属 図書館	遠藤 寿一 教授 司書	図書館演習 1. 図書館を有効に利用して、情報を収集し、与えられた条件に相応しい書籍を探し出すことができる。
3	C1 C2 5/12	金	3	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	考える技術 1 1. 発言（文章）に含まれる議論の構造、隠れた前提を意識し、批判的に検討することができる。
4	C1 C2 5/19	金	3	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	考える技術 2 1. 隠れた前提を明示して、根拠の妥当性を批判的に検討することができる。
5	C1 C2 5/26	金	3	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	書く技術 1 1. 主張・根拠・結論を備えた論理的文章を作成することができる。
6	C1 C2 6/2	金	3	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	書く技術 2 1. レポートとは何かを説明することができる。 2. レポートの作成方法を説明することができる。
7	C1 C2 6/9	金	3	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	マインドマップ 1 1. 思考プロセスをミニ・マインドマップで表現し、整理することができる。

8	C1 6/13	火	3	心理学・行動科学分野 体育学分野 附属図書館	藤澤 美穂 講師 佐々木 亮平 助教 司書	文献検索演習 1. 必要かつ適切な医療情報 を図書館やインターネットを 活用して収集することができる。
	C2 6/19	金	4	心理学・行動科学分野 法学分野 附属図書館	相澤 文恵 教授 廣瀬 清英 講師 司書	文献検索演習 1. 必要かつ適切な医療情報 を図書館やインターネットを 活用して収集することができる。
9	C1 C2 6/16	金	3	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	マインドマップ2 1. 思考プロセスをフル・マ インドマップで表現し、整理 することができる。
10	C1 C2 6/23	金	3	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	フォローアップ 1. 修得度が十分でなかった スタディスキル分野を自覚 し、今後の課題として取り組 むことができる。
11	C1 C2 7/7	金	3	哲学分野 WS-WG	遠藤 寿一 教授 WG 教員	ワークショップ① PBLWS オリエンテーション 1 1. 問題解決型学修の意義を 説明できる。 2. ワークショップの流れを 説明することができる。
12	C1 C2 7/7	金	4	哲学分野 WS-WG	遠藤 寿一 教授 WG 教員	ワークショップ② PBLWS オリエンテーション 2 1. KJ 法と二次元展開法につ いて説明できる。

13	C1 C2 7/14	金	1	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 数学分野 数学分野 医用工学分野 医用工学分野 物理学科 物理学科 物理学科 化学科 化学科 生物学科 生物学科 生物学科 生物学科 英語分野 英語分野 英語分野 英語分野 体育学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師 江尻 正一 教授 長谷川 大 助教 高橋 史朗 教授 小野 保 講師 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師 中島 理 教授 東尾 浩典 准教授 吉田 潤 講師 松政 正俊 教授 三枝 聖 准教授 内藤 雪枝 助教 菅 孔太郎 助教 James Hobbs 教授 柳谷 千枝子 講師 Jonathan Levine-Ogura 助教 松田 竜宙 助教 佐々木 亮平 助教	ワークショップ③ 1. KJ法と二次元展開法を実践することができる。
14	C1 C2 7/14	金	2	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 数学分野 数学分野 医用工学分野 医用工学分野 物理学科 物理学科 物理学科 化学科 化学科 生物学科 生物学科 生物学科 生物学科 英語分野 英語分野 英語分野 英語分野 体育学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師 江尻 正一 教授 長谷川 大 助教 高橋 史朗 教授 小野 保 講師 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師 中島 理 教授 東尾 浩典 准教授 吉田 潤 講師 松政 正俊 教授 三枝 聖 准教授 内藤 雪枝 助教 菅 孔太郎 助教 James Hobbs 教授 柳谷 千枝子 講師 Jonathan Levine-Ogura 助教 松田 竜宙 助教 佐々木 亮平 助教	ワークショップ④ 1. KJ法と二次元展開法をワークショップの課題に応用することができる。

15	C1 C2 7/14	金	3	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 数学分野 数学分野 医用工学分野 医用工学分野 物理学科 物理学科 物理学科 化学科 化学科 化学科 生物学科 生物学科 生物学科 生物学科 英語分野 英語分野 英語分野 英語分野 体育学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師 江尻 正一 教授 長谷川 大 助教 高橋 史朗 教授 小野 保 講師 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師 中島 理 教授 東尾 浩典 准教授 吉田 潤 講師 松政 正俊 教授 三枝 聖 准教授 内藤 雪枝 助教 菅 孔太郎 助教 James Hobbs 教授 柳谷 千枝子 講師 Jonathan Levine-Ogura 助教 松田 竜宙 助教 佐々木 亮平 助教	ワークショップ⑤ 1. KJ法と二次元展開法について意見交換することができる。
15	C1 C2 7/14	金	4	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 数学分野 数学分野 医用工学分野 医用工学分野 物理学科 物理学科 物理学科 化学科 化学科 化学科 生物学科 生物学科 生物学科 生物学科 英語分野 英語分野 英語分野 英語分野 体育学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師 江尻 正一 教授 長谷川 大 助教 高橋 史朗 教授 小野 保 講師 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師 中島 理 教授 東尾 浩典 准教授 吉田 潤 講師 松政 正俊 教授 三枝 聖 准教授 内藤 雪枝 助教 菅 孔太郎 助教 James Hobbs 教授 柳谷 千枝子 講師 Jonathan Levine-Ogura 助教 松田 竜宙 助教 佐々木 亮平 助教	ワークショップ⑥ 1. 作業結果に基づいて、改善案を作成することができる。 2. 改善案を説明することができる。

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	スタディ・ナビゲーション	岩手医大・人間科学科・ 附属図書館編	人間科学科	2023
参	大人のための国語ゼミ	野矢茂樹	山川出版	2017
参	考える・まとめる・表現する	大庭コティさち子	NTT 出版	2011
参	理科系の作文技術	木下是雄	中央公論	1981

・成績評価方法

ワークショップ：ループリックに基づいて、授業の聴講姿勢（12％）・グループ内意見交換への参加態度・課題への取り組み（28％）をチューターが総合的に評価する。 図書館演習・文献検索・考える技術・書く技術・マインドマップ：司書および担当教員が、授業の聴講姿勢（30％）・授業内容の把握・課題への取り組み（30％）を、提出課題や「ふりかえりワーク」等により評価する。

・特記事項・その他

PBL-WS では各グループの作業や意見交換について、適宜チューターがアドバイス（会場および WebClass 上で）を行い、科目責任者が全体の受講態度にかんする講評を行う。
考える技術・書く技術・マインドマップでは、フォローアップの時間を使って修得度の低かった項目を中心に学生指導を行う。
なお、教科書（スタディ・ナビゲーション）と各回配布される資料を用いて、事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分とする。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			